

# コスモス 3月号

第68巻 第3号

◆宮柁ニカレンダー(12) 三月の歌

三月に入りたるなり昼近き日ざしは机を取り巻きて差す  
歌集『藤棚の下の小室』

初出は「短歌研究」昭和40年5月号発表作で「三月に入りし一日昼近く部屋ついでの机を日ざし取り巻く」だった。歌集収録にあたり、全体的に改められた。「一日」を省き、きっぱりした二句切れとなった。さらに第三句以下も目覚ましい推敲である。「部屋」を消し、また語順を入れ替えることによって、「日ざし」と「机」との、静謐で象徴的な響きあいを実現させたのである。

文筆業に専念して五年。宮柁二、五十二歳の、鋭く繊細なまなざしが見える。  
(狩野 一男)